Vol.．215　ある自衛官の話の中から
～東日本大震災と国を守る心とは～（平成23年9月12日）

先日ある自衛官と出会い、その折りの話題の中からいくつか書かせて頂きました。

冒頭自衛隊さん始め多くの方々が「生存の限界と言われる72時間」の不眠不休の活動を始めとして大変なご苦労に対し、多くの人々に深い感銘を与えてくれました。

改めて御礼を申し上げますと共に、菅政府はその努力に対して余り評価、感謝の念が見られなかった上に、給料までカットすると言われたのは実に残念でしたと申し上げました所、彼は「実は福島災害派遣前方指揮所の指導官はその施設の壁に、かつて吉田茂元総理大臣が防衛大学第1回目の卒業式で述べた訓示が大きく貼ってあります。」

「訓示・・・君達は自衛隊在職中、決して国民から感謝されたり、歓迎される事もなく自衛隊を終わるかもしれない。きっと非難と誹謗ばかりの一生かもしれない。ご苦労だと思う。しかし、自衛隊が国民から歓迎される事態とは外国から攻撃されて国家存亡の時とか災害派遣の時とか、国民が困窮し、国家が混乱に直面している時だけだ。言葉を言いかえれば、君達が日蔭者の時の方が国民や日本は幸せなのだ。どうか耐えてもらいたい。」の一文であります。

あの大震災を目の前にした指揮官が命がけで被災者を救出しなければとの切実な思いがあったのだろうと思っています。　被災者救援とは労働力支援ではありません。被災者に思いやりの気持を持って寄り添い、労わる心がなければなりません。死体を背負って帰る事も何度もありました。死臭は洗っても洗っても滲みついて取れません。探し求めていた3歳の児がやっと見つかった時、まだ若い母親がその子を抱いて「自衛隊さんが助けてくれたのよ。ありがとうと言おうね。今度生まれて来れたら自衛隊へ入って恩返しをしようね・・・」と言って下さった姿は一生忘れる事はできません。一人ぼっちになった児に「何か欲しいものがありますか？」と聞くと「お母さん！！」と言われて絶句してしまいました。

大震災の恐ろしさはかけがえの無いものまで失ってしまう事であります。国を守ると言う事は国民の安全、安心を支え守り外国からの侵犯から国を防ぐ事であります。

竹島はすでに韓国のヘリポートがあり、民間人が定住しております。

終戦後8月28日には北方四島はロシアに不法占領されており、択捉、国後2島で沖縄の4倍も広い北方資源豊かな島々であります。

尖閣諸島は沖縄のすぐ西方、石垣島の北方に隣接した島は今や中国に脅かされております。

如何に日本が国を守る意識が弱く、非力であるかを思えば残念であります。国家とは独立、主権、領土の保全を国防によって守るものであります。日本の領土は小さいけれど、小さな島々をしっかり守れば領海は全世界で6番目の豊かな海洋資源に恵まれた国であります。

私は今年すでに数度、北の国を訪れました。荒廃した村や町の復旧は遅れ、多くのものを失った北の国の人々は、今までよりももっともっと絆を太くして助け合って逞しく立ち上がっております。この明るい逞しさを私達は逆に見習うべきです。

※9月25日は市議会議員選挙です。日頃お世話になっております方々がたくさんおられます。棄権しない様お誘い下さい。